

Title	生産現場の財務的評価方法 - 生産企業における改善活動の評価方法 -
Sub Title	
Author	河西, 美智子(Kawanishi, Michiko) 河野, 宏和
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2005
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2005年度経営学 第2038号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002005-2038

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	河野 研究会	学籍番号	80430309	氏名	河西 美智子
(論文題名)					
<p>生産現場の財務的評価方法 —生産企業における改善活動の評価方法—</p>					
(内容の要旨)					
<p>金融機関が生産企業に融資を行なう際、一般には財務諸表ベースの評価や担保重視の審査が行なわれることが多く、金融機関の担当者が生産現場に足を運んで生産企業の体質を査定することは少ない。一方、生産企業の側でも、自らの活動内容を、金融機関に分かりやすく数値化して説明する指標を持っていない。金融機関に身を置いていた人間として、こうした状況に疑問を感じ、金融と生産の両者がこれからの時代に連携を深めていくべきとの考え方に立ち、本研究では、生産企業における改善活動の成果を定量的に表わす新たな評価指標を提案する。</p> <p>評価指標の考案に当たり、本研究では、生産企業の原点として、現場で生み出される「付加価値」と、現場をベースとして展開される改善活動に着目する。そして、生産企業が改善活動を進めることにより、投入される原材料（マテリアルユースリソース）と、人・設備といった手段（タイムユースリソース）の原単位を削減しつつ、算出される付加価値総額を増大させていくことに着眼し、両者の比率（倍率）が改善活動の成果を表すことに注目する。そこから、設備有高当りの付加価値、販売管理費当りの付加価値、棚卸資金当りの付加価値という3つの指標（設備有高倍率、販売管理費倍率、棚卸資産倍率）を提案し、それぞれが意味する内容を検討している。</p> <p>その上で、提案した3つの倍率指標を、継続的な改善活動で知られている抵抗器メーカーKOA株式会社と、トヨタ生産方式による改善で知られているトヨタ系部品メーカー7社に適用し、改善活動の時系列での成果が、3つの指標により定量的に示されることを検証している。また、同じトヨタグループにおいても、改善に熱心な企業とそうでない企業では、3つの指標の値が大きく異なることを確認している。</p> <p>本研究で提案している指標は、単純で分かりやすく、時系列比較や業界内比較を可能にするという特徴がある。さらなる指標の精緻化という課題は残されているが、これらの指標は、実務的には、金融機関が生産企業での改善活動を理解するための一助となることが期待される。</p>					